

- 01 財 務 部  
02 03 農林水産部  
04 経済産業部  
05 運 輸 部

# 識名園伝統的工芸品

## ウィークについて

伝統的工芸品月間国民会議議沖縄地区大会

### Point

経済産業部は、「伝統的工芸品月間」の11月に、世界遺産識名園で沖縄の伝統的工芸品産業の振興を図るため、式典、イベントを6日間にわたって開催しました。

伝統的工芸品とは伝統的手法を使って手作業でつくる歴史のある工芸品を経済産業大臣が指定するもので、沖縄においては、全国第3位の13品目が指定されています。

経済産業省では伝統的工芸品産業の振興を図るため毎年11月を「伝統的工芸品月間」と定め、全国各ブロックで、伝統的工芸品の普及を推進する様々な式典・催し物等を開催しています。

今年度の伝統的工芸品月間国民会議議沖縄地区大会は、「識名園伝統的工芸品ウィーク」と題し、11月16日(木)から21日(火)の六日間、世界遺産登録の名勝「識名園」の御殿(ウドン)において、沖縄の伝統的工芸品13品目を堂に会した常設展示を始めとする様々な事業を行いました。

初日の式典においては、伝統的



工芸品産業の功労者の方々の表彰や小中学生を対象とする図画・作文コンクール表彰を執り行うとともに、(中国からの使節)のおもてなしの席でも振る舞われたとされるぶくぶく茶を用いての茶会を開催しました。ぶくぶく茶会はウィーク期間を通して行われ、琉球衣装姿の中高生がお手前を披露しました。

また、「首里織秀作展」において



は人間国宝宮平初子さんの作品を始めとする貴重な作品が展示され、その中で琉球の古典音楽と踊りが披露されました。「きものファッションショー」では琉球古式姿の国王、王妃の登場をオープニングに、北は喜如嘉芭蕉布、南は与那国織まですべての伝統的工芸品の織物を身にまとったモデルが御殿ウドンのステージで観客を魅了しました。「喜如嘉芭蕉布の糸つくり」では高校生が地道で繊細な作業を体験しました。

その他オキナワスタイルでのプロトコルにおいては琉球漆器等を用いての国際的な儀礼を学ぶ講習会、びんがた、琉球絨の製作体験コーナーなど多彩な催し物を行いました。

最終日には、伝統的工芸品の未来を語ろう」をテーマに伝統的工芸品造りに携わる親子三組による

座談会を開催し、会場も交え熱い議論が展開されました。

連日、地元・観光客・小中高の児童生徒など多くの来園客で賑わい、特に19日(日)は、識名園開園以来最多の入園者数を記録しました。

時代を超えて沖縄県民が守り育てて来た伝統的工芸品は沖縄の宝であり、このウィークは多くの方々への素晴らしさを理解していただき、さらなる発展の契機になうものと思います。

